

# 日本のドローン開発企業「テラドローン」が、 ウクライナの企業と共同で迎撃機テラ A1、テ ラ A2 を開発

Felo AI

---

日本のテラドローンが出資するウクライナの「WinnyLab」社が開発した迎撃ドローン「テラ A1」は、実戦でロシアの自爆ドローンを無力化し、高コストなミサイルに代わる低コストかつ効果的な防衛兵器として進化しています。AI 技術を活用し、敵機を自動追尾して体当たりで撃墜するこの技術は、多層型防衛システムの一部として日本への導入も期待されています。【進化する迎撃ドローンの詳細】出資・共同開発: 日本のテラドローン株式会社が、ウクライナの防衛テック「WinnyLab LLC」に出資し、技術開発を支援。「テラ A1」の実力: ウクライナ東部で、ロシアの「シャドー」などの攻撃用ドローンを実戦で無力化することに初成功。コスト効率: 1 機あたり約 2,000~3,000 ドルという低コストで、高価な地对空ミサイルを消費せずに敵機を撃墜できる。技術的な進化: AI を搭載し、時速 100km 以上の速度で自動追尾し、体当たりで無力化する。固定翼型で、長距離・長時間飛行にも対応。今後の展開: ウクライナの戦場で得られた実戦データを基に、日本への逆輸入や多層防御システムへの組み込みが検討されている。ウクライナでは「テラ A1」に加え、ロボット兵器がロシア軍陣地を制圧する事例も報告されており、低コスト・無人化兵器が戦況を左右する大きな要因となっています。

2026年4月28日 テラドローン、ウクライナの固定翼型迎撃ドローン企業 WinnyLab LLC へ  
戦略的出資第二弾 ～多層型防衛の実現に向け、迎撃ドローン領域をさらに強化～

<https://terra-drone.net/26458>

日本が出資、進化する迎撃ドローン／ロボット兵器が変える ウクライナの戦闘 【4月30日  
(木) <https://www.youtube.com/watch?v=kmD5Z5Y8Rms>

## Overview

---

日本の産業用ドローン大手テラドローン株式会社は、ウクライナの防衛テクノロジー企業との戦略的提携を通じて、防衛装備品市場へ本格参入し、現代戦の様相を塗り替える可能性を秘めた迎撃ドローンシステムを開発・実戦投入しています。同社は、ウクライナの Amazing Drones 社および WinnyLab 社へ相次いで戦略的投資を行い、それぞれ短距離迎撃用の「Terra A1」と長距離迎撃用の「Terra A2」を共同開発しました[4][11]。これらのドローンは、ウクライナの戦場でロシアの攻撃用ドローンを無力化することに成功しており、その有効性は「Combat-Proven（実戦証明済み）」技術として世界的な注目を集めています[3][7]。

この取り組みの核心は、数億円規模の高価なミサイルで数十万円の自爆ドローンを迎撃するという「コスト非対称性」の問題を解決することにあります[14][23]。Terra A1 は約 2,500 ドルという低コストでありながら、敵ドローンを正確に追尾・破壊する能力を持ち、持続可能で経済合理性の高い防空網の構築を可能にします[10][21]。Terra A1 と Terra A2 を組み合わせた「多層防衛システム」は、異なる射程と役割を分担することで、より強固で柔軟な防衛体制を実現します[11]。

さらに、ウクライナではドローンと無人地上車両（UGV）のみで敵陣地を制圧するという、軍事史上画期的な作戦が成功しており、「ロボットが血を流さない」戦闘の実現が進んでいます[6][13][20]。テラドローンの先進的な取り組みは、日本の防衛政策とも連動し、将来

の安全保障環境における無人アセットの中核を担うものとして、その動向が注視されています。

## Detailed Report

---

### テラドローンの防衛市場への戦略的転換

2026年3月23日、テラドローンは防衛装備品市場への本格参入を正式に発表しました[1][8][29]。この決定は、ウクライナ侵攻や中東情勢の緊迫化を受け、防衛におけるドローンの役割が飛躍的に増大しているという認識に基づいています[1]。同社は、これまで産業分野で培ってきたドローン開発・運用の知見を活かし、迅速・低コスト・高機能な防衛アセットを提供することで、次世代の防衛基盤構築に貢献することを目的としています[2][8]。

世界の防衛用ドローン市場は急拡大しており、2030年には約3兆6,335億円に達すると予測されています[2][16]。日本政府も、2026年度予算案で無人アセット関連に過去最大規模の約3,128億円を計上するなど、無人システムの活用を国家方針として明確にしています[2][16]。

この大きな事業機会を捉えるため、テラドローンは以下の重点戦略を掲げています[8]。

- 米国法人「Terra Defense」の設立: 2026年度内を目途に米国に子会社を設立し、製品の輸出入や技術連携を担うグローバルなロジスティクス網を構築する[1][2][8]。
- 段階的なグローバル市場展開: 日本の多層的沿岸防衛体制「SHIELD」構想への適応を皮切りに、ウクライナ、米国、NATO諸国、アジア諸国へと展開を目指す[1][2][15]。
- 次世代アセットの開発: 迎撃ドローン、偵察ドローン、無人ボートなど、陸・海・空を横断する製品ポートフォリオを拡充する[15][22]。

徳重徹 CEO は「短期間でトップランナーになり、世界トップ5を目指したい」と述べ、この新事業への強い意欲を示しています[1]。

### ウクライナとの連携による「Combat-Proven」技術の獲得

テラドローンの防衛事業戦略の核心は、世界で最も苛烈な実戦環境であるウクライナの防衛テクノロジー企業との連携にあります。これにより、机上の性能だけでなく、電子戦（ジャミング）が激しい環境下でも機能する「Combat-Proven（実戦証明済み）」の技術を迅速に獲得しています。

Amazing Drones 社との提携と「Terra A1」：2026年3月31日、テラドローンは日本のドローン企業として初めて、ウクライナの防衛企業である Amazing Drones 社への戦略的投資を発表しました[14][35]。この提携を通じて、短距離迎撃に特化したロケット型ドローン「Terra A1」を共同開発し、市場に投入しました[3][14]。この動きはロシア政府の神経を逆なでし、在ロシア日本大使を呼び出して抗議する事態にまで発展しました[10]。



WinyLab 社との提携と「Terra A2」：さらに2026年4月28日、テラドローンは第二弾の投資として、固定翼型迎撃ドローンの開発に強みを持つ WinyLab 社への戦略的出資を発表

しました[4][5][11]。この提携により、長距離・広範囲の防衛を担う固定翼型迎撃ドローン「Terra A2」を製品ラインナップに加え、多層的な防衛システムの構築を加速させています[4][11]。

これらの連携は、ウクライナの防衛技術革新を支援する政府機関「Brave1」からも高く評価されており、日本とウクライナの技術協力の象徴的な事例となっています[14]。

## 迎撃ドローン・ポートフォリオ：多層防衛システムの構築

テラドローンは、特性の異なる2種類の迎撃ドローンを組み合わせることで、多様な脅威に対応可能な「多層防衛システム（Layered Defense System）」の構築を目指しています[4][11]。

モデル	タイプ	主な役割	性能	特徴
Terra A1	ロケット型	短距離・高速迎撃 (基地防衛など)	最高速度: 300km/h, 射程: 約30km[21]	迅速な展開、即時発射、高機動性[3][38]
Terra A2	固定翼型	長距離・広域防衛 (早期警戒)	最高速度: 312km/h, 航続距離: 75km, 飛行時間: 40分以上[11]	長い航続時間と広いカバー範囲[11][18]

Terra A1：短距離・高速迎撃 Terra A1 は、重要インフラなどを狙う自爆ドローンに対する最終防衛ラインを担う迎撃機です[11][38]。2026年4月17日にウクライナでの実運用が開始され、その直後の4月28日には、ロシアが多用するシャヘド型とみられる長距離無人機の迎撃に成功したと発表されました[3][7][24]。公開された映像では、Terra A1 が敵機を正確に追尾し、至近距離で自爆・破片を浴びせて無力化する様子が確認できます[3][21]。

Terra A2：長距離・広域防衛 一方、Terra A2 は固定翼機ならではの長い航続性能を活かし、より広範囲を長時間哨戒し、脅威を早期に発見・迎撃する役割を担います[11][31]。これにより、Terra A1 が担当する最終防衛ラインに到達する前に、脅威を遠方で無力化することが可能となります[11]。

コスト非対称性への挑戦 このシステムの最大の強みは、その圧倒的なコスト効率です[4]。イラン製のシャヘド型ドローンは約 500 万円と低コストである一方、これを迎撃する従来の地对空ミサイルは一発数億円に上ります[23]。この「コスト非対称性」は防衛側の財政を圧迫しますが、1 機あたり約 2,500 ドル（約 40 万円）とされる Terra A1 のような低コストの迎撃手段は、この問題を根本から解決する可能性を秘めています[10][14][21]。

## 戦争のパラダイムシフト：無人兵器による戦闘の現実化

テラドローンの迎撃ドローンが空の防衛を変えつつある一方で、ウクライナの地上ではさらに革命的变化が起きています。2026 年 4 月 13 日、ゼレンスキー大統領は、ウクライナ軍が歩兵を一切投入せず、ドローンと無人地上車両（UGV）のみでロシア軍の陣地を制圧したと発表しました[6][12][20]。

この作戦は「完全無人突撃」とも呼ばれ、軍事史上の転換点と見なされています[20]。空中ドローンが偵察と火力支援を行い、地上では機関銃を搭載した UGV「Droid TW 12.7」や自爆ロボット「Ratel」などが突撃し、ロシア兵を降伏させました[26][34]。

主な特徴:

- 人命損失の回避: 「ロボットは血を流さない」という言葉に象徴されるように、最も危険な突撃任務を機械が代替することで、兵士の命を守ることができる[13][27]。
- 効率的な戦闘: UGV とドローンの連携により、人間では困難な精密かつ容赦のない攻撃が可能となる[20][26]。

- 技術の急速な進化: ウクライナの戦場で得られたデータが即座に開発にフィードバックされ、兵器システムが驚異的な速さで改良されている[26]。

この「ロボット戦争」の現実化は、テラドローンが開発するような無人アセットの重要性を一層高めており、将来の戦闘が人間ではなく、機械によって遂行される時代が到来しつつあることを示唆しています。



## 市場への影響と今後の展望

テラドローンの先進的な取り組みは、日本の防衛産業と安全保障政策にも大きな影響を与える可能性があります。小泉進次郎防衛大臣（当時）は、ウクライナ戦争の教訓から「今の日本に攻撃型のドローンをつくるような企業は無く、いかに自前で持てるかも真剣に考えなければいけない」と述べ、国内でのドローン生産の重要性を強調しています[9]。

テラドローンの迎撃ドローンシステムは、日本政府が2027年度までの構築を目指す多層的沿岸防衛体制「SHIELD」構想において、中核的な役割を担うことが期待されます[2][15]。ウクライナで実戦証明された技術を日本に逆輸入し、国内の防衛ニーズに合わせて最適化していくことが今後の課題となります。

テラドローンは、Terra A1、A2に続き、将来的にはジェットエンジンを搭載したさらに高性能な迎撃ドローンの開発も視野に入れており、防衛分野における製品ラインナップを継続的に強化していく方針です[15][22]。同社の挑戦は、一企業の事業展開に留まらず、日本の防衛力強化と、世界の安全保障環境の変化に対応する上での試金石となるでしょう。

1. [防衛装備品市場に本格参入 26年度中に米子会社設立](#)
2. [テラドローン、ドローンが防衛のゲームチェンジャーとなる時代に ...](#)
3. [Terra Drone Announces Successful Interception of a Long-Range ...](#)
4. [Japan's Terra Drone Invests in Ukraine's WinnyLab to Develop ...](#)
5. [Japan's Terra Drone backs 2nd Ukrainian peer with eye on ...](#)
6. [地上ロボットとドローンのみでロシア軍の陣地を初めて制圧と発表 ...](#)
7. [テラドローン、迎撃ドローン「Terra A1」が長距離無人機脅威へ ...](#)
8. [防衛装備品市場へ本格参入～次世代防衛システムを構築に ...](#)
9. [小泉防衛相は国内生産を示唆、今の日本に攻撃型ドローンを作る ...](#)
10. [Japan Just Put a Weapon in Ukraine's War, and It ... - Wes O'Donnell](#)
11. [Japanese drone maker doubles down on Ukraine as Tokyo eases ...](#)
12. [Ukraine claims first battlefield win using only robots](#)
13. [「ロボットは血を流さない」ウクライナ軍、歩兵の代わりに ... - CNN](#)
14. [ウクライナ・キーウで防衛事業に関する記者会見を実施～日本 ...](#)
15. [テラドローンが「国産ドローン」で防衛装備品市場に参入](#)
16. [テラドローンが防衛装備品市場へ本格参入、米国法人設立へ](#)
17. [Japan Scales Production of Terra A1 and A2 Interceptor Drones ...](#)
18. [Japan's Terra Drones Boosts Stake In Drone Defenses](#)
19. [Japan's Terra Drone invests in Ukrainian interceptor drones](#)

20. [「兵士なしで敵陣制圧」ウクライナの無人戦闘が戦争の常識を覆した](#)
21. [日本企業の「迎撃機」が自爆ドローンを撃墜!“攻撃成功の...](#)
22. [テラドローン、防衛装備品市場に本格参入](#)
23. [東京で防衛事業の進捗に関する記者発表会を実施～固定翼型迎撃...](#)
24. [Terra Drone Begins Operational Deployment of the “Terra A1 ...](#)
25. [Terra Drone Announces Strategic Entry into the Defense Equipment ...](#)
26. [Ukraine's killer robots show how war is changing](#)
27. [「ロボットは血を流さない」ウクライナ軍、歩兵の代わりに無人...](#)
28. [日本企業出資の迎撃機 攻撃用ドローン無力化に初成功...](#)
29. [Terra Drone\[278A\]：新規事業の開始（防衛装備品市場へ...](#)
30. [武器輸出「全面解禁」元年——防衛・ドローン株は今が「買い場...](#)
31. [Japan's Terra Drone expands Ukrainian ties to break into global ...](#)
32. [Japanese drone company Terra Drone said its Terra A1 interceptor ...](#)
33. [Ukraine unleashes killer robots on the battlefield](#)
34. [自爆・機関銃ロボットの突撃にロシアが降伏…ウクライナの「無人...](#)
35. [テラドローン、ウクライナ企業に出資 迎撃ドローンを日本向け輸出](#)
36. [テラドローン、防衛装備品市場に本格参入 米子会社を設立へ](#)
37. [防衛大臣記者会見](#)
38. [Terra Defense – The global security environment is undergoing a ...](#)
39. [Japan's Terra Drone Backs Production Expansion of Ukraine's 'Terra ...](#)
40. [Ukraine's Defense Tech Market Hits \\$6.8B—Ground ...](#)
41. [テラドローン、迎撃ドローン「Terra A1」が長距離無人機脅威へ...](#)
42. [【材料】テラドローンがS高カイ気配、防衛装備品市場の参入と...](#)
43. [「迎撃ドローン」の検索結果 - Yahoo!ニュース](#)
44. [Japanese drone firm Terra Drone has announced a second major ...](#)
45. [Japan's Terra Drone boosts Ukraine's interceptor capabilities - MSN](#)
46. [Ukrainian Drone Holds Position for 6 Weeks](#)
47. [Terra A1、ウクライナで実運用開始—日本発の迎撃ドローンが...](#)
48. [テラドローンとウクライナ企業アメイジング・ドローンズ、迎撃...](#)
49. [Japan Scales Production of Terra A1 and A2 Interceptor Drones ...](#)

50. [Robot Soldiers Hit the Battlefield in Ukraine](#)
51. [防衛装備品市場へ本格参入 米国で「Terra Defense」設立を ...](#)
52. [Japan Scales Production of Terra A1 and A2 Interceptor Drones ...](#)
53. [防衛装備品市場に本格参入 26 年度中に米子会社設立](#)